

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 国語科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・小笠原村学力調査の平均正答率は70.6%で、全国平均(66.7%)とほぼ同程度であるが、説明的な文章の構成や展開について根拠を明確にして考える問題の正答率が23.5%で全国平均(40.2%)と比べると低い。
- ・小学校で学習した漢字を読む、書く問題の正答率が全国平均(読む70.4%・書く83.0%)と比べると低い。

【課題】

- ・基本的な知識・技能の定着

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

(課題) 言語についての知識・理解・技能の向上、漢字の定着

(具体的な授業改善策)

- ・難意語等を国語辞典や漢和辞典を使って調べることで、言葉を正しく理解する。(語句の量を増やし、話や文章の中で使うことができる。)
- ・漢字バッチリノートを活用し、家庭学習で漢字を練習する。
- ・漢字小テストを実施し、100点合格を目指す。(再テスト実施)

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・定期的に漢字や語句の小テストを行い、定着度を図る。
- ・漢字が分からない時は辞書を引くように指導する。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①定期的に漢字の小テストを実施し、定着度を図る。

<検証方法>

- ①小テストの正答率が80%を超えるかどうかで検証する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

<課題>

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 社会科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>【結果から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正答率は52.0%で、全国平均(56.4%)とほぼ同程度で、おおむね良好な状況であるが、活用(42.5%)に課題がある。 ・内容として、「飛鳥時代～平安時代」と「世界の諸地域」に課題がある。 ・領域「歴史」、観点「主体的に学習に取り組む態度」に課題がある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的分野における基礎・基本の定着 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連する項目の記載なし <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・单元ごとに小テストを実施して、社会の基礎的な用語の定着を図っている。 ・定期的にニュースレポートを課し、ニュースを見る習慣の定着を図っている。 ・プレゼンテーションソフトや動画を活用して、興味関心が高まるようにしている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width:100%"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①小テストを毎回の授業で実施して、前時の知識の定着を図る。</p> </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①2学期の評価で、「知識・技能」でAが付く生徒が30%を超えるかどうかで検証する。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①小テストを毎回の授業で実施して、前時の知識の定着を図る。</p>	<p><検証方法></p> <p>①2学期の評価で、「知識・技能」でAが付く生徒が30%を超えるかどうかで検証する。</p>
<p><方策></p> <p>①小テストを毎回の授業で実施して、前時の知識の定着を図る。</p>	<p><検証方法></p> <p>①2学期の評価で、「知識・技能」でAが付く生徒が30%を超えるかどうかで検証する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</p>			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 数学科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・村学力調査において、全国平均 56.6%に対して 55.1%とほぼ同程度である。
- ・村学力調査において、「空間図形」の内容が全国平均 54.5%に対して 47.1%である。
- ・村学力調査において、「データの分布の傾向」の内容が全国平均 47.3%に対して 42.2%である。

【課題】

- ・数学的な知識や技能を活用する力や思考力・判断力・表現力の向上。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】 数量や図形についての技能

【具体的な授業改善策】

- ・公式の構成や導き出し方の学習を通して、公式の有用性を理解し、活用することができるようにする。
- ・多面的に捉え検討してよりよい方法を粘り強く考えさせたり、学習したことを生活や学習にどのように活用できるか考えさせたりすることで、理解の定着を図る。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・小單元ごとに小テストを実施し、基本的な知識・技能の定着を図っている。
- ・ペアやグループで学び合うことで、知識や技能の定着を図るとともに、習熟度の差を縮める。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①知識や技能を活用した問題や思考力・判断力・表現力を問う課題を多く取り入れる。

＜検証方法＞

① 2学期の評価で、「思考・判断・表現」でAが付く生徒が30%を超えるかどうかで検証する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 理科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・令和4年度の村の学力調査の結果、全国平均とほぼ同程度ではあるが、知識・技能の観点で全国平均から0.8%下回っている。

【課題】

- ・設問に応じた形で身に付けた知識・技能を適切に活用する力を身に付けさせる必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・理科に出てくる言葉を絵や図を用いてわかりやすく記録し、確認することで定着を図る。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・実験後の考察を課題として家庭学習で取り組んだ後に、授業にて全体で考え等を共有し、様々な視点で捉える環境をつくること。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①実験の考察を自ら考え、文章化する時間を設定する。

<検証方法>

- ①2学期以降のレポートで、自ら考え考察を書くことができるようになっているかで検証する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

<課題>

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

・

・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 音楽科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・授業アンケートの「授業に意欲的に取り組んだ」の項目で肯定的な意見が79%、あまりあてはまらないが21%となっている。その理由は「苦手な教科」、「歌が苦手」などである。また「演奏などの活動に積極的に参加できている。」の項目での肯定的な意見は84%であった。あまりあてはまらない人の理由は「歌うのが得意ではない」である。定期考査に向けた学習に対しては95%が肯定的な意見である。

【課題】

- ・音楽経験・能力に個人差があり、個人で思考して表現する力。
- ・座学よりも実技を通して『できる』の実感を一層もたせること。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

【各教科の課題】 表現技能の向上

【具体的な授業改善策】

○音楽の良さを味わう中で技能を向上させる授業の推進

- ・歌唱や合奏での互いの音色の重なりを実感させ、技能の向上を図る。
- ・合唱・合奏活動を通して、学び合いの場の充実、主体的に表現活動を行い技能の向上につなげる。

【改善の評価】

○合唱や合奏の中で1人では味わえない音楽の良さを実感した児童が増えた。

△表現活動に個別指導が必要である。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・個人の課題をグループ練習で共有しやすくする工夫を行う。グループ練習に適した教材により課題を複数で克服する活動を増やす。
- ・振り返りを次の練習に生かし、積み重ねを意識させる。
- ・個々の技術面向上のため、各楽器指導を充実させる。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①グループ練習に適した教材により課題を複数で克服する活動を増やす。
- ②振り返りを次の練習に生かし、積み重ねを意識させる。

＜検証方法＞

- ①発表曲だけでなく、簡単な練習曲も加えて教え合う、グループで合わせる活動を取り入れる。
- ②練習毎に自己診断カードを記入し、次回への課題を明確に確認させる。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 美術科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・授業アンケートの「授業に意欲的に取り組んだかどうか」「積極的に活動したかどうか」という項目で、「あまりあてはまらない」と回答している生徒が10%おり、その理由が「時間内に制作が終わらない、遅れる」などだった。
- ・授業アンケートの「定期考査に向けた学習に取り組んだか」という項目で、「あまりあてはまらない」と回答している生徒が15%おり、その理由が「忘れていた」「あまり勉強していない」「補習は行ったけど、それ以外はしなかった」などだった。

【課題】

- ・全員の作品をきちんと納得できるところまで終わらせること。
- ・定期考査の学習に対しての意欲を高めること。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

【各教科の課題】 表現を工夫して深める力の向上

【具体的な授業改善策】

様々な材料や用具の特徴を生かしながら主題を表す力を身に付けさせる授業の推進

- ・様々な材料や用具を総合的に工夫して使えるような題材の設定を図る。
- ・主題について導入やワークシートなどを工夫して、考えを深めることができるようにする。

【改善の評価】

○課題についての導入やワークシートなどの工夫で考えや発想が深まった。

△基本的な技能が十分に身に付いていない児童が数名いる。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・理論と実践は物事の両輪であると考え、「説明(理論)」→「実技」→「理論(定期考査)」という授業構成にしている。授業中に指導した「制作のポイント」に沿って評価をし、その説明をする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①制作が遅い生徒も多いので、放課後の補習等で納得ができるところまで制作することで生まれる達成感や成就感をもたせていく。
- ②定期考査に向けて学習に意欲がわからない生徒もいるので、その足掛かりとしての補習は継続的に行う。

<検証方法>

- ①授業中の机間指導で進捗を見て、生徒の不安が大きくなる前に、場の設定をしていくことを繰り返す。
- ②テスト前に補習を行っているが、テストの結果で「補習に出てよかった」と思うようにしていくことを繰り返す。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

<課題>

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 保健体育科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・授業アンケートの「定期考査に向けて学習に取り組んだ」の回答は、あてはまるが94.7%、あてはまらないが5.3%であった。

【課題】

- ・実技分野や保健分野、体育理論分野での専門用語や実技分野の基本的な技能を習得すること。
- ・理解したことを運動場面で発揮するために、試行回数をより多く保つための場作りをすること。
- ・仲間同士で伝え合い、聞き合うことで主体的に学習に取り組む態度を養うこと。
- ・運動学習に対する積極的に取り組むこと。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・自分やグループの課題を解決するために、友達と声をかけあって、楽しんで活動する授業の推進
- ・互いにアドバイスをし合う機会を増やす。
- ・みんなで楽しめるように、ゲームのルールを工夫する。
- ・チームワークを大切にできるように、ゲーム前には班での作戦の時間を十分に確保する。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・授業開始時に本時のねらいを伝えるとともに、専門用語の確認と定着を図ること。
- ・技能のポイントを明確にし、それを保障する運動場面の時間確保をすること。
- ・技能のポイントを教員と生徒、生徒同士が伝え合い、聞き合う場面を設定すること。
- ・授業のまとめ時に生徒同士が授業の振り返り場面を持つことで次時へ学習の動機付けとすること。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①運動有能感を高めるために、前時よりも上達したことを自身で確認するとともに、全体で共有する。
- ②各単元での専門用語の定着を図り、授業内で活用すること。

＜検証方法＞

- ①2学期授業アンケートにおいて、授業内でできるようになった項目が向上することで検証する。
- ②授業開始時等で確認し、仲間同士で教え合う場面で活用していることで検証する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 技術科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・楽しく授業を受けることができているが、授業アンケートの「定期考査に向けた学習に取り組んだ」の項目について、「あてはまらない」「あまりあてはまらない」が合計で26%であった。

【課題】

・知識や理論について意欲的に学習する態度。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

・関連する項目の記載なし。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・知識や理論について意欲的に学習する動画を説明する。

・動画を補足するためにプリント、板書、パワーポイント、更に動画を利用する。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

〈方策〉

①動画作成、提示、視聴し、プリントなどで補足を
する。

〈検証方法〉

①授業の最後にプリントを回収し、授業の理解度を
確認する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

〈成果〉

〈課題〉

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

・

・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和4年度第2学年 英語科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・令和4年度村学力学習状況調査では、基礎の校内正答率が全国平均を1.1%、活用が4.8%上回った。しかし、語形・語法の知識・理解の問題の校内正答率が全国平均より7.8%低かった。
- ・「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、授業内容を「どちらかといえば分からない」「ほとんど分からない」と回答した生徒が45%である。また「どちらかといえば得意ではない」「得意ではない」と回答した生徒が65%であった。

【課題】

- ・文法項目を用いた英作文及び読解問題への応用力。
- ・学習進度の個別最適化。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・関連する項目の記載なし。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・新学習指導要領の実施に伴い、学習内容（語彙や文法等）が高度化した。そのため、先にリスニング及びスピーキングによるインプットとアウトプットの機会を多くし、表現に触れられる機会を増やす。その後、リーディングとライティングでのインプットとアウトプットに繋げ、知識の定着を図る。
- ・読解問題では、文法に関する問題及び内容読解についての解説を個々の学習速度に合わせ、ICT 端末を活用する。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①小テストや単元テストの実施による基礎的な知識・技能の定着を図る。
- ②ICT 端末を活用し、文法や読解に関する問題への学習活動の個別最適化を図る。

＜検証方法＞

- ①単元ごと、文法単位ごとに小テストを実施し、定期考査との差分を測り、更なる改善を図る。
- ②日々の授業での聞き取りや授業アンケートの回答から、生徒の学習への取組状況から検証する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】